

桔南小だより

令和6年9月10日 第10号

名張市立桔梗が丘南小学校

全国学力・学習状況調査結果の分析及び今後の取組

4月18日(木)に6年生を対象に実施されました、全国学力・学習状況調査(以下「学調」)の結果をもとに、本校の児童の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組について、概要を報告させていただきます。結果から見られるのは6年生の児童の実態の一部ではありますが、今後の本校の学力向上の取組に学校全体として活かしていきたいと考えています。

0. 各教科、調査問題作成の基本理念について

「学調」の調査問題は、国際的な学力調査の考え方や調査結果を考慮しつつ、学習指導要領に示された各教科の目標及び内容等に基づいて作成されています。学習指導要領では、①生きて働く「知識及び技能」、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」、この三つの資質・能力を柱として、それに基づいて各教科の目標や内容が整理されています。なお、「学調」によって測定できるのは学力の一部であり、学校の教育活動の一側面です。このことも考慮し、授業改善ならびに教育活動の充実を図っていきます。

1. 教科についての調査結果

(1) 平均正答率について

本校は、全国・三重県・名張市と比較すると、国語・算数とも上回っています。

	国語	算数
桔梗が丘南小	◎	◎
名張市 (%)	68	63
三重県 (%)	67	62
全国 (%)	67.7	63.4

「◎」：全国・県・市の平均正答率を上回っている
「○」：同じ程度
「△」：下回っている

(2) 結果から見られる本校の傾向(強みや弱み)

教科	結果から見られる本校の傾向(強みや弱み)	
国語	強み	<ul style="list-style-type: none">情報の関連づけのしかたを理解し、文章を書くときのメモを的確に把握する。物語を読んで心に残ったこととその理由を条件に合わせて書く。「話す、聞く」場面において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討する。
	弱み	<ul style="list-style-type: none">話し言葉と書き言葉の違いに気づく。目的や意図に応じて事実と感想・意見を区別して自分の考えを書く。
算数	強み	<ul style="list-style-type: none">文章問題の問題場面を口を使って表す。小数の割り算や円グラフの読み取り、角柱の特徴を表すなど、基礎的な問題を解答する。
	弱み	<ul style="list-style-type: none">球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。速さの意味を理解し、道のりが等しい場合の速さについて比較しどちらが速いか説明する。折れ線グラフから複数の情報を読み取り、言葉と数を用いて記述する。

※国語・算数ともに「無解答」の状況を示す「無解答率」が全ての問題において低く、あきらめずに最後までやり抜く様子が見られます。

2. 児童質問紙調査における特徴的な傾向

「学調」では、67の質問に回答する「児童質問紙調査」も同時に行いました。生活習慣や自己有用感、学習習慣、地域社会との関わり、ICT機器の活用、学習に関する興味や関心、などの質問でした。

良い傾向と思われる設問

○生活習慣

- ・朝食を毎日食べている。・毎日、同じくらいの時刻に寝て、起きている。
- ・健康に過ごすために学習したことを普通の生活に取り入れている。

○自己有用感

- ・自分にはよいところがある。・人の役に立つ人間になりたい。

○規範意識

- ・人が困っているときは、進んで助けている。・いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。

○学習に関する興味・関心

- ・国語、算数、英語の授業は好き。大切。よく分かる。
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、活かしたりすることができると思う。
- ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
- ・友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- ・道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。

○その他

- ・学校に行くのは楽しいと思う。・友達関係に満足している。
- ・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。
- ・授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、先生は分かるまで教えてくれている。
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

課題があると思われる設問

●家庭学習

- ・学校の授業時間以外または、学校が休みの日に1日当たりどれくらい勉強をしているか…「1時間より少ない」が最多回答
- ・1日当たりの勉強のためのICT機器使用時間。…30分より少ないが最多回答

●その他

- ・1日当たりのテレビゲーム（コンピュータ、携帯型、携帯電話やスマートフォンのゲームも含む）をする時間。…2時間以上が約40%

○学習に関する興味・関心は、全体的に肯定的な回答が多く、前向きに教育活動に取り組んでいる傾向がみられます。自己有用感や生活への満足度も高く、好ましい人間関係を基盤に、学校生活を送っている様子がうかがえます。

●家庭学習の時間やICT機器を学習に活用するという点においては、個人差が見られます。ゲームやSNS・動画視聴の状況と併せて現状を把握していく必要があります。

3. 学びの充実を図るための今後の主な取組（各学年の実態に応じて取り組みます）

（1）授業改善・指導改善に取り組みます

調査結果から共通してみられた①自分の考えを記述し表現すること、②日常生活と関連付けて知識・技能を活用すること、を伸ばすために以下の点を重点として授業改善に取り組みます。

- 国語「話す、聞く」活動では、自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を取り入れます。
- 自分が書いた文章を必ず推敲する。文字や表記の間違いを直すことから始め、書いたことが読み手に伝わっているか等、系統的に取り組みます。
- キーワードや条件を示して考えをまとめる活動を取り入れます。
- 算数で学んだ計算や割合、データの処理方法などの知識・技能を日常生活と関連づけて活用できるように取り組みます。
- 根拠をもって問題解決ができるよう、「～だから、○×□＝…となります」などの言語活動や立式の根拠を記述する活動を取り入れます。
- 5年算数での習熟度別少人数指導や4年～6年の国語 T.T 指導を充実し、「できた」「分かった」をかなえる効果的な少人数指導を行います。

(2) 学習規律の定着・徹底を図ります

「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現するために、安心して学ぶ環境を整えます。

- 桔梗が丘中学校区小中一貫教育「べんきょうのかきくけこ」を基に、学習規律の徹底を図ります。

「か」んがえよう…まずは自分で考えよう
「き」ょうりょくしよう…なかまと一緒に解決しよう
「く」ふうしよう…勉強の仕方やノートの書き方を工夫しよう
「け」じめをつけよう…気持ちの切り替え、時間を守る、姿勢を正す
「こ」とばをかわそう…「聞く」、「話す」のキャッチボールを大切にしよう
※ 各学年の実態に合わせて活用しています。

- 授業中に自分の意見を発言できる機会を効果的に設けます。
- 間違いや失敗から学ぶために、「分からないこと」や「うまくいかないこと」を共有する授業づくりや学級経営を行います。
- 児童の活動に対して、賞賛と励ましを逃さず行い、次への意欲につなげます。
- 定期的な教育相談を行い、児童一人ひとりの思いや考えを的確に把握すると同時に、困ったことをほっとかない環境を作ります。
- 学級活動や児童会活動など、特別活動の充実を図ります。

(3) 学習習慣や基本的生活習慣の定着を図ります

生活習慣や学習習慣の定着は、学力向上と深い関連があります。家庭や地域の皆さんとともに進められるようご協力をお願いします。

- 「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の習慣化と充実を図ります。
- テレビやインターネット視聴、ネットゲーム等を行わない「メディアコントロールデー」を月2回（第4水曜・日曜）設定し（桔梗が丘中学校区共通）、取組と振り返りを行います。
- 高学年において、自学自習の習慣をつけることをめざし、家庭学習アンケートを行い、自らの生活習慣や学習習慣を見つめ直す家庭学習力向上の取組をすすめます。

月2回の「メディアコントロールデー」。メディアから30分以上離れる時間を作るこの活動は、子どもだけでなくすすめることは難しいと思います。家族みんなでその時間を統一することで意識が高まり、定着していくのではないかと考えます。30分の過ごし方として、家族みんなで読書をする家庭読書（家読＝うちどく）を試してみるのも一つの方法だと思います。読書を通して家族のコミュニケーションを深めることにもつながることを期待します。

（文責 阿形）